函館中部高生 インターンシップ

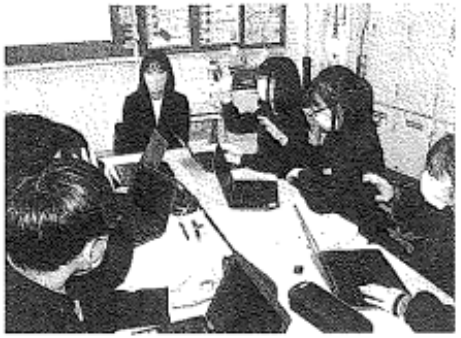
教職のやりがい実感

道教大附属函館中が受入

【函館発】道教育大学附属函館中学校（中村吉秀校長）は11日から2日間、教職を志す高校生のインターンシップとして、函館中部高校（清水信彦校長）の生徒を受け入れた。高校生は授業補佐や中学生との座談会に参加＝写真＝。交流を通して、教職のやりがいや魅力を実感した。

高校生が教員の職務や学校教育の内容、子どもと触れ合う楽しさについて理解を深める道教委事業の一環。教職の魅力を感じてもらうとともに、教員養成大学の志望につなげることをねらいとしている。

附属函館中には高校1・2年生5人が来校。総合的な学習の時間における学習支援のほか、進路の悩みに応じる座談会を行った。



中学1・2年生を対象とした座談会で5人は自校の校風や魅力をプレゼンテーション。日頃の学習到達度を計る定期テストは13科目を有することを紹介し「周囲と協力してテスト対策に取り組む必要がある」と説明した。

3年間を通して物理、生物、化学の3科目を学ぶ理数科の教育課程では宇宙航空開発の現場に触れることができる宇宙航空研究開発機構（JAXA）への訪問の機会があることをアピール。学校生活では多くの生徒が部活動に所属し、文武両道を果たしていることを伝えた。

校風の説明後は高校生が中学生の進路相談に対応した。中学生は「受験勉強はいつから開始しましたか」「英語の効果的な学習方法を教えてほしい」などと積極的に質問。「間違えた問題に印をつけて何度間違えたかを確認するなど重点的に取り組むと良い」などと親身に応じた。

附属函館中2年の林万桜さんは「学力の高さから授業についていくのが厳しいイメージを抱いていたが、先輩の生の声を聞いて、入学したいと感じた」と振り返った。

中学校教員を将来の目標としている函館中部高2年の田中ゆらさんは「先生の立場を実感できる良い機会だった」と話した。

生成AIが教育現場にもたらす可能性について理解を深めてもらおうと、来年1月12日と15日に町民文化センターで参加無料のICT教育セミナーを企画。うち12日は文科省DX戦略アドバイザーで生成AIに関する著書を手がける京都府公立小学校教諭の坂本氏によるワークショップを行う。定員は80人でタブレット端末およびPCの持参とともに、事前にCanvaのライセンス取得を求めている＝2次元バーコード上＝。

15日は町図書館でグーグルワークスペースフォーエデュケーションの活用研修およびグーグル認定教育者レベル1の取得研修を行う。定員は40人＝2次元バーコード下＝。

いずれも檜山・渡島・後志管内等教育関係者の申し込みを可能としている。締め切りは20日。